

〈詩〉

## 運河

あ・け・み

夕闇に形をなくしていく運河

ひたひたとひたひたと満ちてくる潮

一列になつてカモの親子が帰っていく

幼いこどもの声が聞こえる

「おかあさん ばあちゃんとうまくいかないから  
家をでるの?」

夕闇の街をさ迷い歩いたあの日

灯りの下での回響がみえる

曲がりくねった運河のように

手繰り寄せる記憶は

闇にまぎれ 潮にまぎれ

流されていくようでもあり

潮の懐に帰っていくようでもあり

### ●随想

## 仲間

秋山喜作（草の根運動運営委員）

祖父母が、「良い友達と付き合いなさい。慕う年上の人と友達になりなさい」と教えてくれました。学校を通して、社会人として、労働を通し、労使関係での労働者として、平和、権利、地位向上、経済闘争、階級闘争での政治的な闘いで、国鉄労働組合歌ではないが、「世界の友と手を取り合い、明日を信じゆく道を知っている」のです。

フィリピン、韓国、中南米などの米軍基地反対の闘いと連帯し、沖縄返還のたたかいを闘いました。独立、経済的自立、平和外交、非武装中立を信条として、核廃絶と、憲法擁護、安保・地位協定廃棄、基地撤去、いかなる軍事同盟にも属さず、をめぐし、世界に目を向けて、生涯を終わりたいと決意しています。

(2013年7月22日自宅にて、国労退職者組合員・国府津支部)